

科目名 Course Name	心理学 Psychology				ナンバリング No.	A1-001	
年次	1年	期別	前期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	秋山 真奈美						
連絡先(質問等)	講義棟3階研究室かC-Learning に対応。オフィスアワーは火・土・授業・会議時間を除くものとする。						
必修/選択	選択(介護福祉士養成課程選択必修)						
関連 DP	DP5						
授業の概要と到達目標	<p>心理学は、さまざまな場面で生じてくる「こころ」の現象を、理解し、日常場面で役立つ形でその成果を応用していくことを目指す学問である。本教科では入門編として、心理学の各領域の紹介につとめるとともに、特に下記の内容に焦点をあて、私たちの「こころ」のしくみについて解説していく。</p> <p>ついでには、心理学の基本的な考え方や技法を紹介するので、</p> <p>①これらを自分の生活の中における様々な現象・行動理解の際に利用することができるようにする。</p> <p>②客観的な視点で人間の行動を捉えられるようにする。</p> <p>③個人および集団行動の傾向を知り、人間理解を深める。</p>						
授業の方法	<p>視覚教材、プリント等も活用しながら講義形式にて進行する。単元の終了ごとに小テストを行う。学期末に論述試験を実施する。好ましい論述試験解答の書き方および評価の基準・観点は、初回オリエンテーション時に具体的に指導する。社会行動・心理援助技法の単元ではワークとディスカッションを行い、人間の心理的変容の過程をアクティヴ・ラーニングする。演習後はリアクションペーパーの提出を求める。</p>						
学習成果	L01	対人関係技能や社会的ルールにおける心理学的要素を弁え、実践できる。					
	L02						
	L03	①個人や集団の行動の裏に潜む、反応の根拠や法則性に気づき、言及できる。 ②興味を持って人間の営みを観察する視点を身につけ、社会的な課題に対し、学んだことと身近な事象とを結びつけることができる。					
	L04						
課題に対するフィードバック	小テストは実施翌週に返却する。学生はその問題をヒントに期末考査の論述試験対策を行う。自発的学習者には随時模擬論述の添削を行う(ただし第15週まで)。						
教科書/参考図書	教科書:『心理学』和田万紀(編)(弘文堂)。 参考書は初回授業はじめ各回授業で随時紹介する。						
履修上の留意点やルール等	私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加は授業参加態度において減点の対象とする。事前・事後学習時間の目安は各回180分相当とする。期末考査においては自筆ノートの持ち込みを許可するので、指定された事前事後学習を熟しておくことで相当に有利となる。						
担当教員の実務経験							

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	講話を集中して聴き、板書した内容だけでなく、重要だと判断したことは主体的にノートに書き取ること。疑問に思ったことを臆さずに質問できるとたいへん好ましい。演習での積極性は高く評価する。	20			
レポート／作品	演習後のリアクションペーパーの内容を評価の対象にする。演習に真摯に取り組む、その体験から得たことを的確に文章化できていることを期待する。	5			
発表					
小テスト	日常の努力点として勘案。小テストを復習すれば、学年末試験での成果が期待できるしくみである。			15	
試験	設問への妥当な回答、学習の成果が反映されている回答がなされていることが評価の要件となり、日常生活における事象・事例の記述や演習体験、多角的な視点からの考察はおおいに加点の対象になる。			60	
その他					
<b>合計</b>		25		75	

回数		授業計画
1	授業内容	オリエンテーション:心理学とは こころの存在へのアプローチ 心理学の誕生と発展 心理学の領域
	事前・事後学習	事前学習はとりあえず不要。ポイントを授業内で知らしめるので、事後学習として、普段疑問を感じている一般的な対人的現象、人間行動的矛盾をノートに書き出す。これが次回のための事前学習ともなる。
2	授業内容	心理学の方法と可能性:人間理解とその方法 心理学的視点とは
	事前・事後学習	自己学習でノートに書き出した内容について、人間行動の疑問を解き明かすには、どのような心理学的技法が妥当であるかを対応させる。
3	授業内容	社会行動:社会の中の自己 他者の存在とその影響
	事前・事後学習	事前学習としてこれまで他者から受けた印象的な影響をノートに挙げ、事後学習としてその現象がどのような心理学的メカニズムによって発生したのかを考察する。
4	授業内容	社会行動:集団における他者からの影響 少数意見の影響力 リーダーシップ
	事前・事後学習	事前学習として個人行動場面と集団行動場面での自分の行動の相違をノートに挙げ、事後学習としてその現象がどのような心理学的メカニズムによって発生したのかを考察する。また、小テストに備える。
5	授業内容	パーソナリティー:パーソナリティーの捉え方 遺伝と環境の関係 主要人格検査の紹介
	事前・事後学習	事前学習はとりあえず不要。事後学習として、授業内で行った簡易心理テストの結果を自己分析する。
6	授業内容	パーソナリティーと発達:性格の形成と理解 人は発達変容する 発達段階と課題 メンタルヘルス 自分を知る
	事前・事後学習	自己分析の結果を、今後のキャリア形成にどう活かすかを検討する。また、小テストに備えると共に、返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
7	授業内容	感覚と知覚:環境をどのように捉えるか 五感の性質 知覚のしくみ
	事前・事後学習	事前学習はとりあえず不要。(翌週の事前学習を兼ね)事後学習として、身近で感じたヒヤリハット経験を知覚ごとに挙げる。特にそのような経験を持たぬ者は知人にインタビューをして題材を集める。
8	授業内容	感覚と知覚:錯覚と盲点を知る バーチャルリアリティ
	事前・事後学習	事前学習は上記。事後学習として、それらの経験がどのような知覚的メカニズムによって生じたのかを分析する。また、小テストに備えると共に、返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
9	授業内容	記憶と認知:ヒューマンエラー 覚えるしくみとその発達 日常的記憶 記憶の役割
	事前・事後学習	自他の体験したヒヤリハットを含むヒューマンエラーを防止するための対策を考案する。
10	授業内容	記憶と学習:忘却と記憶の混乱 記憶法 思考とは 学習の基礎概念と方法 知能とは
	事前・事後学習	記憶錯誤や忘却によるトラブルを防ぐための対策をノートにまとめる。また、友人の学習方法を聴き、自己の学習スタイルを点検する。次回小テストに備えると共に、返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
11	授業内容	感情:我々の感情 感情の役割 感情の発達
	事前・事後学習	事前学習として感情が原因の失敗経験を挙げておく。事後学習として、それらの経験に対しどのような対処が有効であるかを分析する。
12	授業内容	感情と欲求:欲求不満と葛藤 欲求不満耐性
	事前・事後学習	自分がどういう場面で欲求不満を感じ易いかを事前に点検しておく。事後学習として、授業で得た知識も参考にしながら、自分の場合は欲求不満耐性を培うのにはどういう方法が有効であるかを分析する。また、小テストに備えると共に、返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。

13	<b>授業内容</b>	適応と不適応:精神分析理論 適応のメカニズム
	<b>事前・事後学習</b>	事前学習はとりあえず不要。事後学習として、適応機制のそれぞれに対し、身近な実例をノートに挙げる。
14	<b>授業内容</b>	適応と不適応:臨床心理学とは 心理的援助技法 [演習]相手の話を丁寧に聴く・離れた場所にいる相手を気遣う・明確な表現をする
	<b>事前・事後学習</b>	事前学習はとりあえず不要。事後学習として、リアクションペーパーを作成し、自分のコミュニケーション能力の長所と短所を再確認する。また、小テストに備えると共に、返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
15	<b>授業内容</b>	心理学の可能性:日常生活の中に心理学を活かす
	<b>事前・事後学習</b>	事後学習として、これまでの情報を有効活用できる形に再編成し、期末試験に臨む。